

# 【3-A】古瀬戸連区 社会条件

## 【連区の概要】

古瀬戸連区は瀬戸市中央部の東寄りに位置する。連区西部の市街地にはやきもの産業関連施設が集積している一方、連区東部には樹林地がある。主要道路としては、連区西部を国道 248 号が南北に通過している。



古瀬戸連区

## 【人口および世帯数】

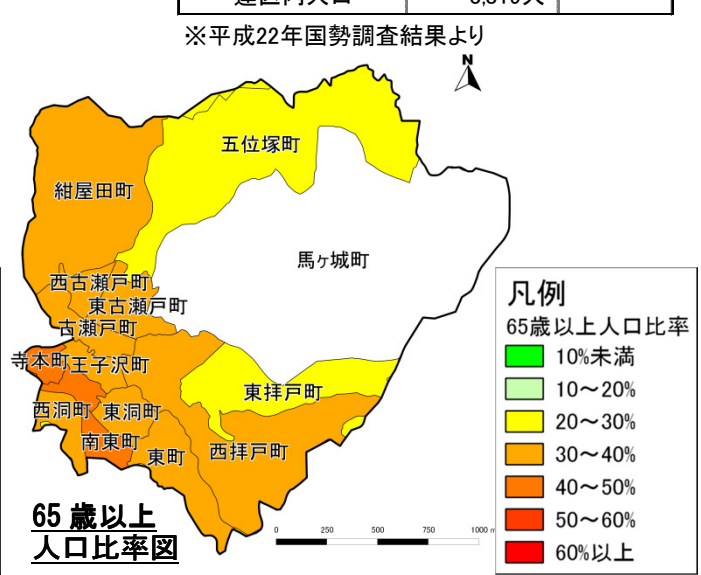
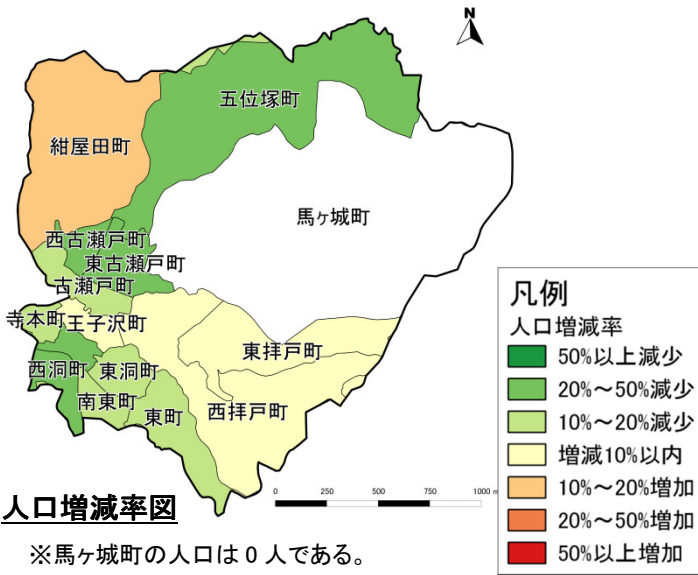
平成 12 年から平成 22 年までの 10 年間で、古瀬戸連区全体の人口は 4,373 人から 3,819 人と 12.7%減少し、紺屋田町を除き、ほぼ全域で減少傾向である。また世帯数は 1,558 世帯から 1,487 世帯と 4.6%減少している。

古瀬戸連区全体の 65 歳以上人口比率が 32.0%と、瀬戸市全体の 23.3%と比べて 8.7%高く、連区全域にわたって高齢化が進展している。

### 階層別人口構成

年代	人口	構成比
0～14歳	322人	8.5%
15～64歳	2,266人	59.6%
65歳以上	1,216人	32.0%
区分不明	15人	-
連区内人口	3,819人	

※平成22年国勢調査結果より



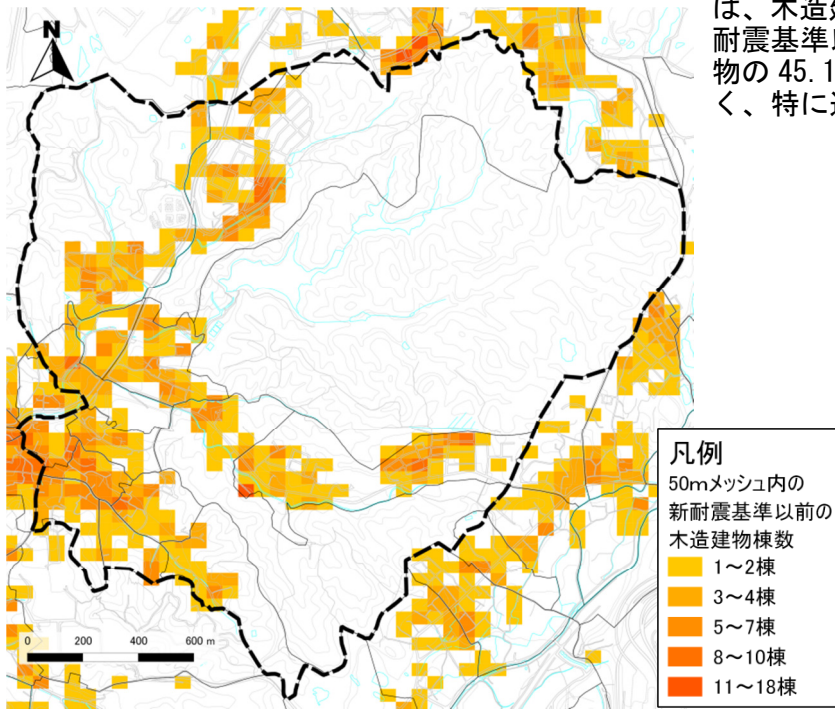
## 【建物】

古瀬戸連区の木造建物および非木造建物の割合は、木造建物 65.0%、非木造建物 35.0%である。新耐震基準以前（昭和 55 年以前）の木造建物は全建物の 45.1%であり、瀬戸市全体の 34.3%に比べて高く、特に連区西部の市街地に集中している。

### 木造・非木造構成

建築年	棟数	構成比
木造	S35年以前	432棟 22.1%
	S36～55年	448棟 22.9%
	S56年以降	389棟 19.9%
計	1,269棟	65.0%
非木造	S45年以前	231棟 11.8%
	S46～55年	110棟 5.6%
	S56年以降	343棟 17.6%
計	684棟	35.0%
連区内棟数	1,953棟	100.0%

※平成23年度都市計画基礎調査  
建物利用現況図をもとに集計



新耐震基準以前の木造建物分布図

### 【3-B】古瀬戸連区 水害および土砂災害

- 過去に水害が発生した箇所がある。また、連区南東部に土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が集中して存在する。
- 連区北部に風水害時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。

#### 【水害および土砂災害箇所】

古瀬戸連区では、浸水想定区域は設定されていないが、古瀬戸町および王子沢町では、平成12年の東海豪雨時に浸水被害が発生している。

また、連区南東部（古瀬戸町、東古瀬戸町、寺本町、王子沢町、仲洞町、西洞町、東洞町、南東町、東町、西拝戸町、東拝戸町）には、土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域に指定されている箇所があり、対策が必要である。

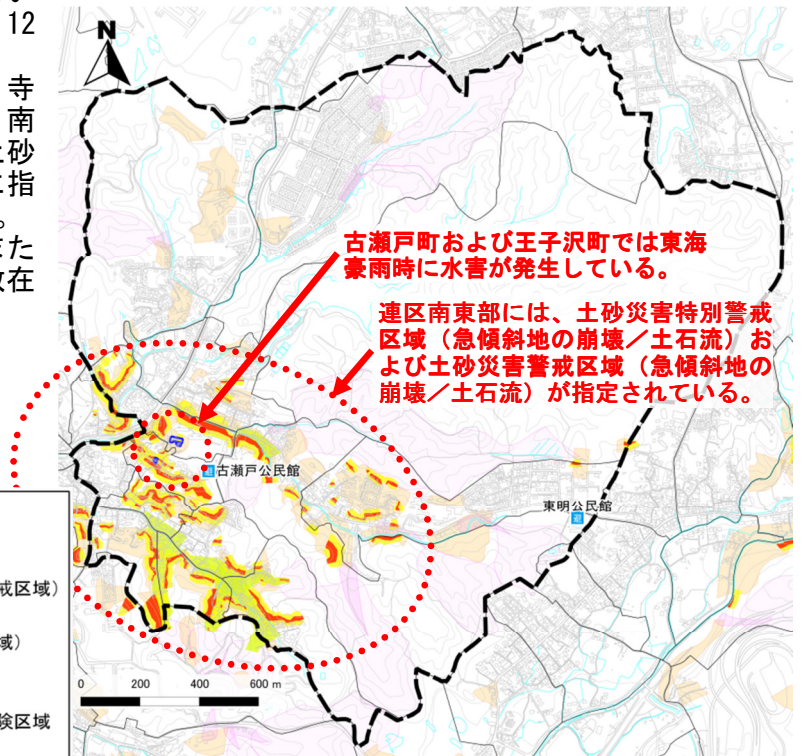
その他、連区内には急傾斜地崩壊危険箇所または土石流危険渓流が指定されている箇所が散在している。

#### 土砂災害警戒区域内にある建物棟数

急傾斜地の崩壊	325棟
特別警戒区域	160棟
警戒区域	165棟
土石流	198棟
特別警戒区域	0棟
警戒区域	198棟

凡例

- 風水害避難所
- 土砂災害情報
- 急傾斜地の崩壊(特別警戒区域)
- 土石流(特別警戒区域)
- 急傾斜地の崩壊(警戒区域)
- 土石流(警戒区域)
- 土石流危険渓流
- 土石流危険渓流による危険区域
- 急傾斜地崩壊危険箇所
- 地すべり危険箇所
- 既往水害(東海豪雨)



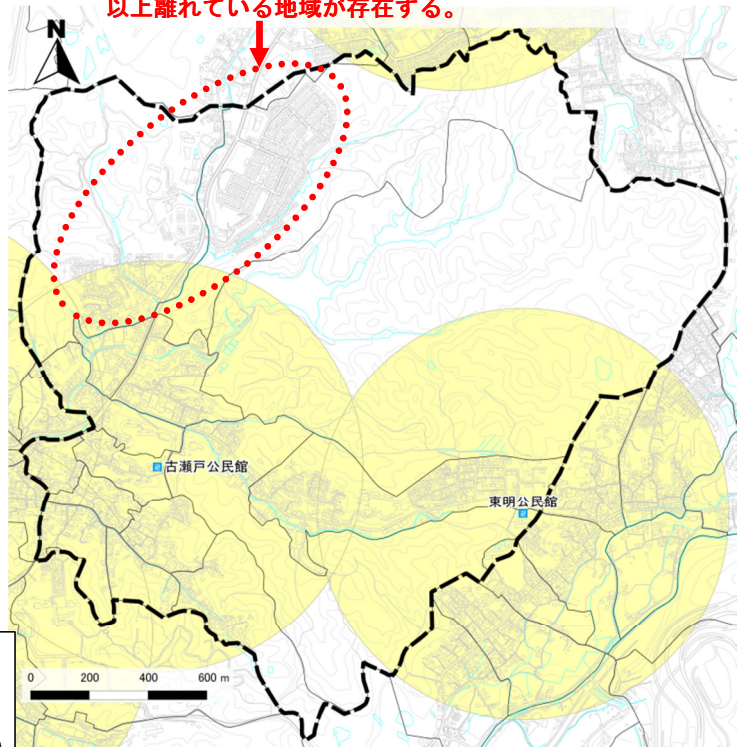
水害・土砂災害危険度図

#### 【風水害時の避難所および緊急避難場所】

古瀬戸連区では古瀬戸公民館が風水害時の避難所・緊急避難場所として指定されている。近隣連区の避難所も含めると、紺屋田町の北側と五位塚町を除き、700m以内に避難所が存在する。

避難所が近隣に存在しない五位塚町地内の団地では、風水害時の避難所への近接性が良くないことを周知するとともに、早めの避難を促すなど、避難体制を整える必要がある。

紺屋田町の北側と五位塚町には、避難所まで700m以上離れている地域が存在する。



風水害時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図

#### 風水害時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所・避難所	収容定員(目安)		
	長期	初期	直後
古瀬戸公民館	35人	70人	115人
深川公民館【深川連区】	40人	85人	135人
東明公民館【東明連区】	40人	85人	135人

※地域防災計画より

凡例

- 避難所・緊急避難場所(風水害)
- 緊急避難場所兼避難所
- 避難所等からの対象範囲(同心円)
- 避難所から700mの範囲

### 【3-C】古瀬戸連区 地震災害

- 連区西部の沖積地の一部で液状化の可能性が非常に高い。
- 連区南西部の市街地を中心に、耐震性の低い建物が倒壊する割合が高い。
- 連区北部に地震時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。

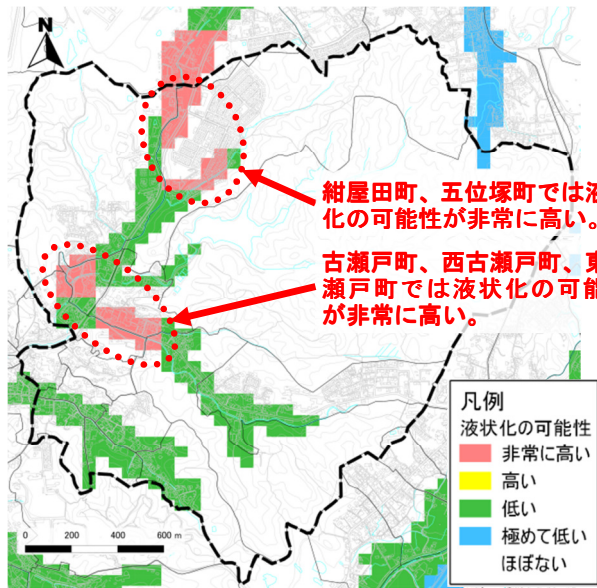
#### 【建物被害および液状化】

##### (1) 建物被害について

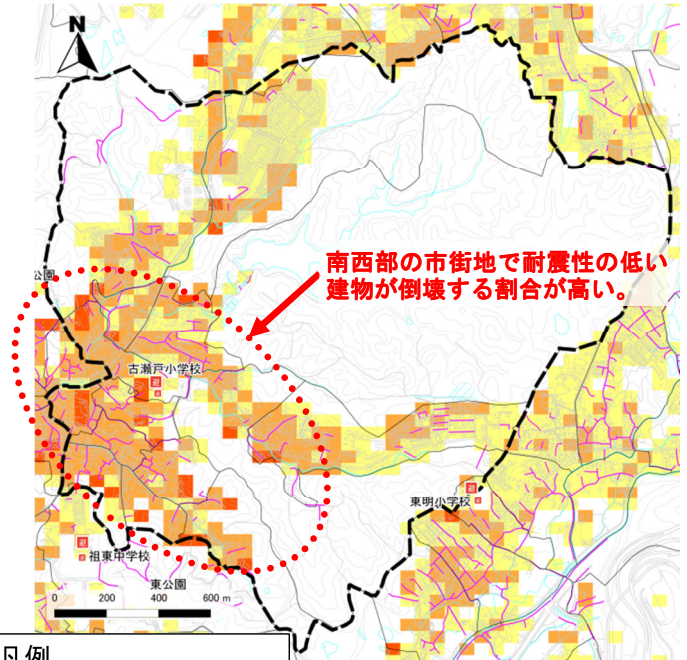
古瀬戸連区はほぼ全域にて、耐震性の低い建物が倒壊する危険性がある。このうち、連区南西部では、耐震性の低い建物が倒壊する割合が高い傾向があり、幅員が狭小な道路が多いため、道路閉塞や火災延焼の危険度が高い。

##### (2) 液状化について

液状化の可能性がある地域は、紺屋田川、古瀬戸川、拝戸川、寺本川で形成された沖積低地（谷底平野）に分布している。このうち、紺屋田町、五位塚町、古瀬戸町、西古瀬戸町、東古瀬戸町では、可能性が非常に高い。



液状化危険度図



建物(木造および非木造)倒壊危険度図

#### 【地震時の避難所および緊急避難場所】

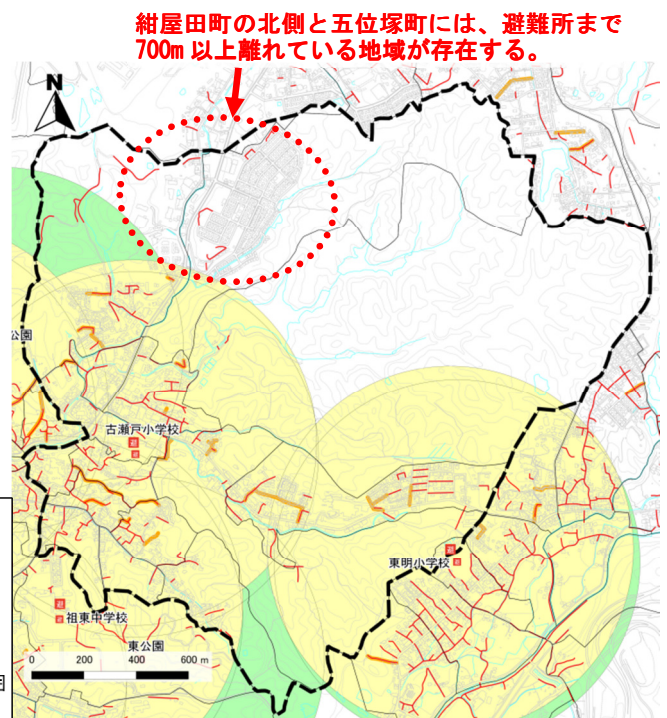
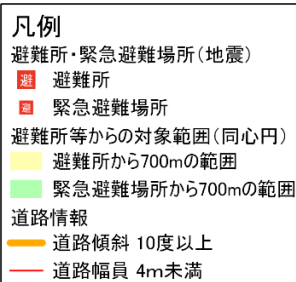
古瀬戸連区では、地震時の避難所および緊急避難場所として古瀬戸小学校が指定されている。紺屋田町の北側と五位塚町を除き、近隣連区の地震避難場所なども含めて、700m以内に避難所もしくは緊急避難場所が存在する。

地震時の避難所までの距離が離れている五位塚町地内の団地などでは、地震時における避難体制を整える必要がある。

##### 地震時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所	避難所	収容定員(目安)		
		長期	初期	直後
古瀬戸小学校(運動場)	古瀬戸小学校	95人	190人	305人
東明小学校(運動場) 【東明連区】	東明小学校 【東明連区】	95人	190人	310人

※地域防災計画より



地震時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図